

日本音楽表現学会

第15回(クロッシング)大会

—音楽のクラフと交差点から見える風景—

2023年4月27日(土)~28日(日) 都立音楽ホール

主催：東京音楽大学 後援：東京都

ファンファーレ→ご挨拶
→基調講演→総会





↑サロン

↓懇親会



三味線の音色表現
①
岡本中心委員会 藤田氏

↓分科会ⅠA～B





↑分科会ⅠC～G

↓分科会ⅡA～G



↓分科会ⅢA～G



↓分科会ⅣA～G



発表デビュー!?

大内邦靖 (トロンボーン)

演奏家にとって、演奏そのものがある種の研究発表ではあるものの、その一瞬で消えていってしまう音たちの意味や価値を如何に残し、伝えるかというのは大きな課題の一つなのだと感じています。今回、これまでの多くのエキサイティングなご発表に触発されて「それでは私も!」と重い重い腰を上げました。

トロンボーンの前楽器についてのリサーチと提案は、実践者も極めて少なくマニアックですので関心を持っていただけるのか心配でしたが、発表後には多くの先輩方から「古いものなのに今後に大きな可能性を感じた」とのお言葉をいただき、さらなる研究推進へのエネルギーとなりました。伝えたいこと、見つけたこと、提案したいことはたくさんありますが、それらを確かな根拠をもって提示するには我々実技畑の人間には少々高い壁もあります。演奏という研究活動に、もう少しの努力をプラスして、形として残すことの意義を感じているところです。

今回のクロッシング大会では、古楽研究者や実践者のご発表はもちろん、多ジャンルのご発表に触れて、音楽の多様性を感じると同時に、「音楽に共通する何か」についても思いを新たにいたしました。

「クロッシング大会」に参加して

久保田葉子 (ピアノ)

毎年、音楽仲間との出会いや、刺激的な会話を楽しみに参加させて頂いています。今年は司会デビューの機会も頂戴しました。司会をしながら、学生に指揮・伴奏・演出も全て任せ、地域の子もたちに演奏会を聴いてもらう授業をなさっている内山尚美さんの研究発表を間近に聴きました。音楽が得意な学生も、経験が少ない人も、全員参加で知恵を出し合い、音楽作品の力を借りて自分の内面を表現し、子どもやファミリーと音楽の楽しさを共有していく—表現する活動が人とつながりやを創り、一人ひとりを成長させ、心を開かせていきます。私自身も、大学生と一緒に小学校や福祉施設などにアウトリーチをしたり、地域の公共ホールで学生や教職員と一緒に演奏会を企画し

たりする中で、表現活動の奥深さと、挑戦することの面白さにのめりこんでいますが、これからも、学生を信頼し、発表の機会を大切に、日々クリエイティブな活動をしたいと意欲を新たにしました。「クロッシング大会」は私にとって、音楽の持つ可能性の大きさを再認識し、共に活動する仲間への感謝が深まる貴重な時間でした。ありがとうございました。

第15回クロッシング大会に参加して

坂東 肇 (ピアノ)

本学会発足以来、ほぼ毎年、本大会に何らかの形で参加してきました。そこでいつも感じることは、これほど知的好奇心を刺激し、分け隔てなく共に楽しく音楽を探究できる学会はないということです。それだけに、これまでも多くの学生や卒業生に参加を呼びかけてきましたが、都合上、せいぜい1、2名の大学院生及び卒業生と共に参加する程度でした。しかし今回は、大学院生1名に学部生6名及び卒業生3名が参加し、新たな知見に共に接することが出来たのは、神戸大学在職32年目を迎え最後のゼミ生を指導している私にとって、望外の喜びでした。

実際、学生たちは、まず、東京音大の斬新な校舎に感嘆!そして、開会ファンファーレのレヴェルの高さやホールの響きに感動し、この大会への期待も一気に膨らんだようです。基調講演では、どんな偉大な音楽の先人も、学びの時期があり試行錯誤の時期があったことを学び、レクチャーコンサートでは、「ヴィブラート」について多角的に理解を深め、各々の関心にに応じて参加したサロンでは、どの学生も、議論に参加する中で新たな視点を得ると同時に、自分の意見を尊重して貰えたことに深く感謝しておりました。また、分科会において様々な研究の最先端に触れることで、将来を探る学生には大きな示唆となり、人生をかけて音楽を学ぶ決断をした学生も出てきました。

学生たちを引率してきた教員としても、こんなに嬉しいことはなく、学会に改めて感謝申し上げます。次第です。

茶の湯と音楽

木下 千代 (ピアノ／事務局担当理事)

茶道を始めてはや15年になる。奥伝の稽古や茶事を経験するようになり、ようやく茶道の何であるかが少しずつ解ってきたように感じる。忙しい日常、月3回お稽古に行くのは時間的にきびしく、行けない時もあるが、お稽古が始まると一生懸命になっている自分に気づく。「上手には好きと器用と功積むとこの三つそろふ人ぞ能くする」の利休道歌(利休の教えを裏千家十一代玄々斎が書き留めたもの)にあるとおり、まさに好きであることが一番の条件なのである。これは音楽も同じである。

茶道には音楽と共通する部分があるところにある。まず年代物、伝来物の道具に敬意をはらって丁寧^{ていねい}に扱うこと、これは名器である楽器を扱うのに似ている。格の高い茶入れや茶碗にはそれにふさわしい袱紗^{ふくしゃ}捌きと浄め方がある。大名物の天目茶碗などで濃茶を練^{くわいづけ}って客に出すと、膝退して位付の姿勢(膝で二歩下がり手を体の横において控える)をとる。これは茶碗に対する敬意なのである。使い込まれて餛^{くわい}色になった道具は、演奏家によって使い込まれ響きが磨かれた楽器と同じである。ピアニストも会場でよい楽器に出会うと心が躍る。リサイタルなどで十分なリハーサルののち楽器がよく鳴ってきてくれると「よろしくね」と楽器を撫でて楽屋入りしたりするものである。よい楽器、よい道具との出会いは心を高めてくれる。

点前の所作には緩急^{じま}があり道具を浄め茶を点てるころまでは丁寧な動き、終い付けに入ると所作は少しずつ速くするのが良いとされる。茶碗を拭く動作一つにしても、名物になるほど緩急をつける。これは日本の伝統音楽の序破急の流れに似てはいないだろうか。

また音に対する感性も研ぎ澄まされる。竹の蓋置にポンと音を立てて柄杓が置かれるのを合図に総礼、松風(釜の音)を聴きながら茶がたつのを待つひととき、柄杓から釜に返されるきれいな湯の音、そして拝見の道具が戻される衣擦れの音を亭主は襖の陰でじっと聴きつけて襖を開ける。また季節による心づかいとして、夏の時期客の前で茶巾を絞り

その音で涼感を出す点前もある。先日茶飯釜の茶事(客の目の前で釜でご飯を炊く茶事)を経験したが、3月の釣り釜に洗い米がさらさらと入れられる音には、なんともいえない風情と早春の温かみを感じた。音と所作は密接な関係を持ちつつ様々なニュアンスを生み出す。音色を選び取る演奏家には茶室のサウンドスケープは示唆に富んでいる。

そして茶事では亭主が庭や茶室のしつらえ、料理など心を尽くした準備をし、一期一会の客を迎えて親しくもてなしをする。これは私たち演奏家が練習を重ねて十分な準備のもと当日客を迎えるのと似ている。プログラムや衣装、そしてステージマナーにも舞台に立つものとしての最善を尽くし客を喜ばせる工夫を凝らす。そして心から心に届く演奏をすることは茶の湯の持つもてなしの心と通じるものがある。茶道も音楽も単なる趣味や娯楽ではなく、高い道徳性と倫理性をもつ一大文化体系なのである。

そんなわけで茶道に惹きつけられてやまない昨今であるが、もっと根源的な理由がありそうだ。西洋音楽を生業とする自身が、まだまだ本当に西洋音楽を理解してはいない、一生かかっても理解できない、という異文化理解の壁をひしひしと感じているからこそ、日本古来のものにひと時の安らぎを見出しているのかもしれない。少なくとも茶室にいるとき、私は私の日本人としてのアイデンティティを強く感じることができるのだ。

いずれにしても道は険しい。クロッシング大会の学会統一テーマシンポジウムでお稽古における「守破離」の話が出たが、利休道歌にも次のようなものがある。「規矩作法^{きくさほう}守りつくして破るとも離るるとても本を忘るな」

演奏において基本を教わりそれを破るところまでは、耳順^{じじゆん}の年にして覚束なくもたどりついたか、と感じているが、「離るる」すなわち自由闊達に音楽の世界に遊ぶことはまだまだ遠い境地である。茶道も音楽もこれからの長い修行の日々を考えると、畏れに似た心持ちと同時に未知のことを識る期待に胸がふくらむ思いである。

新入会員紹介

個人情報に付き削除しています。

個人情報に付き削除しています。

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

- 豊田典子さん 「歌の会★青い星が贈る 世界の名曲 100 曲リクエストコンサート」
日 時：2017年7月17日(月・祝) 14:00 開演
会 場：国際楽器社 ミュージックサロン
料 金：2,500円(前売り2,000円)
主 催：歌の会★青い星
演 奏 者：豊田典子 松永芙紗子 岡田征士郎他
曲 目：「キャッツ」よりメモリー「浜辺の歌」「埴生の宿」他
連 絡 先：フェリーチェ音楽院 0798-69-3301
- 深井尚子さん 「深井尚子ピアノリサイタル～名曲をトークとともに～」
日 時：2017年10月7日(土)
会 場：スタインウェイサロン松尾ホール
料 金：4000円
主 催：ブルンネン・ミュージック東京
演 奏 者：深井尚子、小原圭
曲 目：モーツァルト：ピアノソナタ K.331、ベートーヴェン：ピアノソナタ Op.27-2、
チェロソナタ第1番、ブラームス：チェロソナタ第1番
- 高旗健次さん 「高旗健次ヴァイオリンリサイタル」
日 時：2017年10月14日(土)14時半開演(14時開場)
会 場：東広島芸術文化ホールくらら 小ホール(広島県東広島市)
料 金：一般：3,000円,くららフレンズ：2,500円(前売り・当日とも)、
学生：1000円(当日1,500円)
主 催：広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座弦楽研究室、
共 催：東広島芸術文化ホール指定管理者
演 奏 者：高旗健次 Vn, (広島大学大学院教授)、垣内敦 Pf. (エリザベト音楽大学准教授)
曲 目：E. シュールホフ：無伴奏ヴァイオリンソナタ・R. シュトラウス：ソナタ、他
- 石原慎司さん 「第3回秋大祭特別オーケストラ音楽会」
日 時：2017年10月14日(土) 11:30～12:30(時間は調整中)
会 場：秋田大学60周年記念ホール
主 催：秋大祭特別オーケストラ実行委員会 shudaisaisporchestra@yahoo.co.jp
演 奏 者：石原慎司の指揮で管弦楽曲や協奏曲を演奏する。
参考 URL：秋大祭特別オーケストラ <http://music.geocities.jp/shudaisaisporchestra>

研究活動支援情報

2018年4月～2019年3月の間に行われる音楽をテーマとした研究活動

支援額：1件につき100万円まで(返済不要)

募集期間：2017年9月25日(月)～10月16日(月)

詳細：ヤマハ音楽振興会 <http://www.yamaha-mf.or.jp/shien/>

事務局からの重要なお知らせとお願い

1. 年会費の納入について

(1) 納入期限：その年度の4月1日から大会開催1週間前までに

学会は皆様方の年会費で運営されています。滞納されますと、機関誌の発行、大会の開催など、さまざまな活動に支障をきたします。年度初め(4月)に速やかな納入をお願いしています。その年度の総会までに3年滞納された方は、総会での審議事項、年会費滞納による除籍対象者になります。無意識滞納にご注意いただきますと同時に、対策の一助として、納入後はただちに、「振替払込請求書兼受領証」(ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」)に、納入年度をメモの上、保存されることをお勧めいたします。年会費をまだお振り込みでない方はお急ぎください。

(2) 振込方法：同封のゆうちょ銀行青色の「払込取扱票」をご利用ください。

電信での送金は、内容確認が困難であり混乱の原因となります。学会では、財務局での入金確認作業を確実にするため、デザイン室で印字した「払込取扱票」の利用をお願いしております。何卒ご協力ください。

振込先：郵便局の振込み口座 01370-6-78225
名 義：日本音楽表現学会

* 海外在住等、国内でのお振込みが難しい方は、事務局へご相談ください。

(3) 領収書・請求書の発行：必要な方は事務局へ問い合わせを

領収書は原則として発行いたしません。「振替払込請求書兼受領証」(ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」)を領収書として保管ください。大学研究費での引き落とし等、請求書・領収書の必要な方は事務局へお問い合わせください。財務局へ取次ぎ、発行手続きをいたします。

(4) 年会費減免措置について：自然災害等の被災による減免措置の制度

学会では、地震や洪水等、自然災害の被災によって年会費納入が困難な会員の年会費を減免する制度があります。必要な方は、HPから以下の書式をダウンロードし、申請ください。理事会に諮り、減免手続きをいたします。

「年会費減免願」書式(20170321版)：

被災による年会費減免願		
年	月	日
日本音楽表現学会		
会長 後藤 丹 様		

このたび、(〇〇地震)被災により、(〇〇〇〇年度)年会費の納入免除をお願いいたしたく、減免願を提出いたします。

なお、(〇〇〇〇)年度分までの会費は納入済みですのでご確認をお願いいたします。

氏 名： _____

現在の連絡先： _____

連絡先電話番号： _____

e-mailアドレス： _____

減免申請の理由(具立的に納付困難の理由をお記ください。)

2. 住所等、会員情報の変更：HPフォームにて速やかにお知らせを

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>

学会からの送付物は事務局本部で理事とスタッフが手作業で、お届けいただいた連絡先にお送りしています。しかしながら、転居先不明等で返却される封筒が少なからず存在します。そのたびに所属先や、時には入会時の「推薦者」に問い合わせ再送しています。このような手間と経費を削減するために、みなさまのご協力を切にお願い申し上げます。

3. 学会会員のサポート制度

(1) 機関誌『音楽表現学』への投稿

原稿の投稿には、会員資格と当該年度までの会費を完納していることが必要条件です。手続きには2~3週間かかります。その点ご確認ください。

『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。

投稿〆切は5月15日です。

(2) 大会での発表

本学会ならではの生の音楽表現を含めた研究発表の機会をご利用ください。応募〆切は、例年2月28日です。会員が500名を超えているために、エントリー締め切り間際のリマインドメールは送りません。申込み期日を明記してください。

4. 会員への情報公開

(1) ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。

・研究ノート、随想など：図表等を含めて刷り上がり1頁以内。

(2) コンサート等の後援・協賛

本学会ホームページのリンクから〔コンサート等後援／協賛申請 フォーム〕にて事務局へ申請してください。確認後、事務局より「後援受理書」をお送りしますので、チラシやプログラムに学会名を掲載ください。また、HP及びニューズレターにも案内を掲載させていただきます。

[コンサート等後援／協賛申請フォーム]

以下の項目それぞれ1行で39字以内を原則とする。

(文例) 以下のコンサートの後援をお願いします。	
会員氏名:	_____
演奏会タイトル:	_____
日 時:	_____
会 場:	_____
料 金:	_____
出演者(会員):	_____
主な曲目:	_____
問い合わせ先: ホール電話番号	_____
*個人の携帯番号・メールアドレスはセキュリティ上、 本会としては記載不可といたします。	

(3) 新刊案内・CD/DVD リリース

著者名(会員)、書名(ISBN)、出版社、価格(税込)、購入方法なども含めてお知らせください。ニューズレターとHPに掲載します。

(4) その他: 隣接領域の研究會等情報などもお寄せください。

投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

5. 学会発刊の書籍の販売について

(1) 『音楽表現学』バックナンバー購入方法: 価格変更メール等で事務局までお申し込みください。

以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

Vol.	会員価格(1部)	一般価格(1部)
2~3	2,500円+送料	3,000円+送料
4~14	3,000円+送料	3,500円+送料
15以降	2,500円+送料	3,000円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。

なお、Vol.1は残部がありません。

(2) 『音楽表現学のフィールド2』好評発売中 会員価格にて購入いただけます。

購入申込: メールで事務局までお申し込み下さい。
music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

送金: 『フィールド2』に専用振込票を同封します。加入者: 日本音楽表現学会

口座: 01370-6-78225

[購入申込書]

『音楽表現学のフィールド2』の購入を申し込みます。	
氏 名:	_____
部 数:	_____
送 付 先:	_____
連絡用 E-mail:	_____

6. 入会手続きについて

本会機関誌への投稿や大会での発表の申込みには本会会員であることが条件です。

お手続きには2~3週間かかります。以下のフォームにて、早めにお申し込みください。

- ・入会申込書はHPからもダウンロードできます。
- ・学会からの連絡(印刷物お届けなど)は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。
- ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

[入会申込書フォーム]

入 会 申 込 書	
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。	
年 月 日	
氏名(ふりがな):	_____
専門分野:	_____
所 属:	_____
自宅住所:	〒 _____
連絡先:(上記と異なる場合) 〒	_____
連絡先 Tel.:	_____
e-mail:	_____
推薦者名(学会員・1名)	_____
音楽表現学会に期待されること。ご意見等:	

7. 退会手続きについて

退会には以下の3点が必要です。

- ① 「退会届」をHPからダウンロードし、事務局に提出
- ② その年度までの年会費完納
- ③ 理事会の承認

「退会願」を提出しないで、年会費を先延ばしにしていると「会則第8条」によって除名処分になります。仕事や私的な理由で残念ながら学会員を「これ以上続けることができない」と判断された場合には、必要な手続きを行ってください。

[退会願書フォーム]

退 会 願	
年 月 日	
日本音楽表現学会 会長 後藤 丹 様	
このたび、日本音楽表現学会を退会したいので「退会願」を提出いたします。 なお、今年度分までの会費は納入済みですのでご確認をお願いいたします。	
氏 名:	_____
連絡先:	_____
連絡先 Tel.:	_____
e-mail:	_____
退会理由:	_____



日本音楽表現学会第16回大会のご案内

会 場：広島市内（詳細は決定次第 HP にて公表）
会 期：2018年6月9日（土）—10日（日）

実行委員会

委員長：原田 宏司（広島大学名誉教授・広島文化学園大学）

実行委員：

権藤 敦子（広島大学）	末永 雅子（広島文化学園大学）	伊藤 憲孝（福山平成大学）
高旗 健次（広島大学）	高橋 千絵（広島文化学園大学）	大野内 愛（広島文教女子大学）
寺内 大輔（広島大学）	山下 敬子（広島文化学園大学）	竹下可奈子（広島大学院生）
徳永 崇（広島大学）	松前 良昌（広島大学附属東雲中学校）	長山 弘（広島大学院生）
光平 有希（国際日本文化研究センター）		

実行委員会からのメッセージ

第16回大会の会場は広島です。

平和な未来へと思いをこめながら、戦後、そして被ばく後70年以上が経過した現在において、音楽はいかにヒロシマを伝えてきたか、その音楽表現に焦点をあて、これまでの活動の検証と継承の取り組みをたどり、演奏を交えて参加者とともに考える機会をつくりたいと思います。



2017年度役員・委員等一覧

会 長：後藤 丹 副 会 長：小西 潤子 加藤富美子 事務局 長：豊田 典子 財務局 長：應和 恵子 理 事：木下 千代（事務局担当） 海津 幸子（財務局担当） 藤原 嘉文（総務担当） 安藤 珠希（総務担当） 編集委員会： 委員長 吉永 誠吾 副委員長 水戸 博道 委員 大竹 紀子 尾見 敦子 上山 典子 齊藤 武 中 磯子 宮本賢二郎	著作権ワーキング： 代表 中村 滋延 委員 近藤 晶子 酒井 勇也 高橋 豊 福本 康之 選挙管理委員会： 委員長 笹野恵理子 委員 大澤 智恵 檜下 達也 監事： 渡会 純一 小畑 郁男	会長諮問会議：安藤 政輝 佐々木正利 杉江 淑子 安田 香 参事：(事務局) 似内裕美子 林 萌 近藤 晶子 デザイン室長：奥 忍 (スタッフ：水江 沙耶)
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

編 集 後 記

東京ではヒートアイランド現象で蒸し暑い日が続いていますが、一方では豪雨、他方では水不足の場所もあり、年々気候の極端な変化を感じております。皆さま、暑さに負けずにお過ごしでしょうか。

第15回大会から1か月半が経ちました。運営に携わってくださった皆さま、本当にありがとうございました。今回のニューズレターは「クロッシング大会」特集です。今大会は初めての東京での大会ということもあり、200名を超える参加者で賑わいました。今まで以上に幅広く、深く、音楽を通じた会員同士の交わりができたのではないのでしょうか。実行委員長をはじめ参加された方々のご感想、数多くの写真などをご覧になりながら、当日の様子を思い出し、あるいは想像していただければ幸いです。

来年は、6月9～10日、設立大会が行われた広島です。すでに実行委員会では準備が始まっています。来年のことなので私の気が少し早いかもしれませんが、多くの方々のご参加を今からお待ちしております。

(安藤珠希)